2023年 3月

マナ通信

今月のマナ通信

◎１月の週日の聖書日課：（コロサイ人への手紙、詩篇、他）
◎土曜日・日曜日の学び：（捕囚と帰還）　からの感想です。

新しい歌を【主】に歌え。主は奇しいみわざを行われた。主の右の御手聖なる御腕が主に勝利をもたらしたのだ。２ 【主】は御救いを知らしめご自分の義を国々の前に現された。３ 主はイスラエルの家への恵みと真実を覚えておられる。地の果てのすべての者が私たちの神の救いを見ている。
４ 全地よ【主】に喜び叫べ。大声で叫び喜び歌いほめ歌を歌え。５ 【主】にほめ歌を歌え。竪琴に合わせて。竪琴に合わせほめ歌の調べにのせて。６ ラッパに合わせ角笛の調べにのせて王である【主】の御前で喜び叫べ。まことに、【主】はこう言われる。」（詩篇98:1-6）

クリスチャンにとって、神ご自身と神がなしてくださったことに対して、愛と感謝を捧げること、つまり賛美することは神の民の大きな特質です。「神は奇しいみわざを行われた」

イスラエルの民はエジプトを出発し、神が先頭で雲の柱、火の柱となり、マナを降らせ、海の水をせき止めて選民を守ってカナンの地に導いて下さいました。又、バビロンに捕囚されていた選民がペルシャのクロス王によって、帰還が許されました。それも、70年もの長い期間であった。しかし、神はこの長い間、約束を忘れずに果たして下さいました。

今、作者は喜びの絶頂にあることが書かれた詩を通して響いてきます。旧約聖書において、賛美を意味する言葉の語根が「音をたてる」という意味であったことを思い出すなら、そのことは、神が素晴らしい方であるなら、それを大声で言い表す必要があることを強調している、と神の民は信じていたのでした。

４節からは王を迎える感謝と喜びが歌われています。この姿は救い主イエス・キリストが全地を治められる姿を彷彿させます。神様はダビデの家系から救い主があらわれると云われましたが、詩篇にも救い主イエスに対する啓示があります。

旧約聖書の時代には、聖なる神様に許された特別な人しか近づけず、祭司や預言者という人を間に入れて近づく必要がありました。だから主役は祭司や、預言者ばかりです。今は、私たちはイエス・キリストの十字架の贖いによって、直接、神様にお祈りすることが出来ます。

聖書は神の恵みの支配に於ける歴史書です。この世で起こる全てのことは、この世界が造られる前から神のみこころの中にあったもので、神のご計画通り着々と進んで来ました。その中で、神と人間とのかかわりを描いたのが詩篇です。

人間は神に頼りながらも、ある時は悲しみ、打ちひしがれて力を落としますが、神様は良くご存じで恵みにより力を与えてくださいます。すると、心の中から湧き上がる力を感じ人間は喜びに溢れ、神に感謝します。恐れおののきます。神に対して叫び、おどり喜びをぶつけます。

この姿が信仰の辿(たど)り着く頂点だと思います。よって、詩篇は一面に於いてクリスチャンの喜びを教えてくれる書だと思います。（畑中伸之）

知れ。主こそ神。　主が　私たちを造られた。
私たちは主の民　その牧場の羊。」（詩篇100:3）

悪魔・サタンは、私が主の牧場の羊であることを忘れさせ、孤独であると思わせ、悩ませ、羊飼いなる主イエス様から引き離そうとたくらんでいます。認知症だの、病だの、死だのと、否定的な思いを抱かせます。

「信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。」（エペソ6:16）

ハレルヤ、「主は私の羊飼い。私は乏しいことがありません。……
まことに　私のいのちの日の限り　いつくしみと恵みが　私を追ってくるでしょう。
私はいつまでも　主の家に住まいます。」（詩篇23:1, 6）（福島三弥子）

日曜礼拝出席のために駅に行くと、半年くらい前からエホバの証人の人たちが、二人ずつ交代で立っています。無料で聖書が学べますと書いてあるスタンドに冊子が入っています。

偽キリスト教に取り込まれない為には、聖書をしっかりと読み、日々聖霊によっていける真の唯一の神様に、根を下ろし続けなければならないと、思わされています。

コロサイ教会へ忍び寄っている異端的な教えを退けるには、頭なるキリストにしっかり結びつくことと、言われました。大事なことは単純明快です。何か徳を積むことでもなく、多額の献金を捧げるのでもなく、奉仕を沢山するのでもありません。ただキリストのみにつながっていることなのです。いつも原点に返ることを肝に銘じています。

47頁のみことばを味わおうの“自分の正義感を働かせて自分が「さばく」事は、神様の望まれることではありません。短気な性格なので、“愚か者は自分の怒りをすぐ現す。利口な者は，はずかしめを受けても黙っている。”（箴言12:16）　怒りに振り回されそうになると、いつも繰り返していました。

今回、詩篇94篇も繰り返して読むようにしたいと思いました。過去の事件で、悔しいなとか、それはないでしょう、と言う思いが、時々心の中に頭をもたげてきます。

主は私の岩(とりで)となり、避け所の岩です。口先だけでなく心から，その通りになることを信じられるように祈って歩みたいです。100%信じきることが重要ですが、なかなかです。（広瀬裕子）

主イエス様を死からよみがえらせ、天の座に着かせた力。それは死に打ち勝ったとてつもない力であって、それは主イエス様だけに働いた力だと思っていました。

一方で、「恵みの働き」（ロマ5:20-21）によれば、霊的に死んでおり、神の敵になっていた人、サタンが支配し持ち物となっていた人に罪を自覚させて、神を信じ、救いにあずかるようにさせる力が、それであるということです。この力は、神のあらゆる大能のみ業の中でも最も驚くばかりの力であり、それがすべてのクリスチャン誕生に働いた力なのを、今般、教えていただきました。

そのうえ、人がキリスト者になる以前にもこの力が働いて守ってくださるとあります。思い返せば、私がまだ高校生のころ、あることをやろうと始めたとたん、なぜか，やーめた、となったのです。

不思議ですが、あの時にそれをしてしまっていたら、と思うと、今でも冷や汗ものです。それが「抑制する力」なのだそうです。信者になる前から働いてくださったとは！

クリスチャンになってから私を悩ませていた、心にふっと沸くある種の悪い思い。それがある時からいやになり、やめようとして、そのたびに「NO」 をつきつけるのですが、それだけでは弱いように思えて、頭を大きく振って「NO」と言うのです。

思いがわくたびにそれをやって、やっと対処できたように思っていましたが、それも「聖める力」が私に「志を立てさせ、実現に至らせてくださる」力によるのだと知り、さも自分の力で対処したつもりになっていたことは高慢だったと悔い改めました。

さらに夫が亡くなった後では、「永遠の御腕が下に」「支えて」くださっていることを具体的に経験して、心から感謝したものです。

以来、その力には日々助けられています。とても感謝しています。そして、最後の時までこの力が働いてくださって、私を離すことが無いということです。

私たちクリスチャンにはこんなにも「恵みの力」が働らき続けてくださる上に、それが私を握りしめ、つかんで離さないとのことですから、この力に信頼と感謝をもって生きてゆこうと思います。

（高橋美枝）

私たちは、あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛について聞いたからです。それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のことばによって聞きました。

この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。」（**コロサイ1:3-6**）

「信仰者の実際の日々の歩みから始まり、霊的な深みに及び、神様につながる恵みを希求しています。驚くほどの恵みの高嶺をここに記しています。しかし、神様は私たちにとって不可能なことは無理強いなさいません。コロサイの信仰者たちがイエス様の十字架の贖いの血潮を頂き、罪の赦しと和解の恵みに明らかに立っていることが背後にあります。……私たちも、イエス様の十字架のあがないの血潮は私たちにも注がれていますと、心から答えることができます。」との説明に励まされました。

「わがたましいよ 主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ 聖なる御名をほめたたえよ。
わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを 何一つ忘れるな。」（**詩篇103:1-2**）

私は、いつも礼拝に参加させていただく時、主をたたえる賛美があることを大変嬉しく思っています。自分が思い出す・いやなこと、それと反対に主が励まして下さる歌詞の御言葉に元気づけられています。

自分の魂に呼びかけます。兄弟姉妹と一緒に賛美する楽しさ・嬉しさに感謝です。今日も私の神をほめ歌います。（木村邦夫）

わがたましいよ　主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを　何一つ忘れるな。
主はあなたのすべての咎（とが）を赦し　あなたのすべての病を癒やし　あなたのいのちを穴から贖われる。」
（**詩篇103:2-4**）

これまでの歩みを振り返ってみると、主が良くしてくださったことばかりです。小さなこと、大きなこと。「主の助けが必要です」と祈るしかない状況に置かれて、主のなさることを信じて祈り、神様の御業（みわざ）の不思議を体験してきました。

これからもきっとそうなのだと思います。繰り返し繰り返しそのように恵みを体験させて頂きながら、主イエス様のうちにとどまり続けていられることに本当に感謝です。

しかし、主が良くしてくださったことの中でのナンバーワンは、「主はあなたのすべての咎（とが）を赦し」てくださったことです。私のすべての咎（とが）を赦しくださった。心に据え置かれたこの安心感は何にも代えがたい宝物です。感謝します。（永井亮子）

それは　わが避け所　主を　いた高き方を　あなたが　自分の住まいとしたからである。」（**詩篇91:9**）

主を信じれば、試練や苦難がなくなる訳ではありません。試練の時も、苦難の時も、主が一緒にいてくださるのです。

日々、主をわが避け所として、主とともに歩んでゆきたいと願います。（外處トミ）

氷点下　凍（い）てつく日にも　我が内に
主が住まわれる　恵みなるかな

2023年1月31日

群馬県吉井町の風景

御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生まれたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあって造られたからである。これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。」（**コロサイ1:15-16**）

この世が造られる前からずっとおられたイエス様が、私たちのために命を投げ出してくださるとは、一体どれほど私たちを愛してくださっていることでしょうか。

感謝します。主のみ心がなりますように。（外處光歩）

また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることにおいて成長しますように。神の栄光の支配により、あらゆる力をもって強くされ、どんなことにも忍耐し、寛容でいられますように。」（**コロサイ1:10-11**）

神様は私たちにとって不可能なことを無理強いなさらないことを覚えて感謝します。

どんな時でもすべてを主にゆだねて、主に導いていただきつつ日々を歩んでいけたら幸いです。（外處結実）

私は主に申し上げよう。『私の避け所　私の砦　私が信頼する私の神』と。」（**詩篇91:2**）

もうこの世に信頼できる権力を持たれる方は、私たちの父なる神様しかいないことが、どんどんはっきりしてくる世の中となってしまいました。

終末が音を立てて近づいてくるのが聞こえるようです。この恐ろしい世界をこれからも歩んでいくことに戸惑いを覚える日々です。

しかし、キリスト者である私にはそのことを聖書を通して知らされているにもかかわらず、あまり現実的には捕えていなかったことを示されます。

現在、毎週中川健一さんの黙示録のメッセージも見ていますが、この世のさばきが明確にイエス様の預言として書かれていることが、現在の状況の中でとても良く理解できるようになりました。

そして、聖書に記載されていること全てが事実なのですから、この世が滅びることが確かなように、神様にイエス様の十字架の血潮によって全ての罪を贖っていただいた私たちの滅びからの救いも確かなのですから、この世の人と同じようにうろたえる必要は無いことも示されました。

ですから、現在の世界中で起こる恐怖の響きは、私たちにとっては神様の御国に近づいていることを知らせ、準備をするようにと鳴り響いているように思われます。

ただ、主に心を寄せて平安に包まれていたいと思います。（外處徳昭）

御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。16なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。」

（**コロサイ1:15-16**）

15節で、御子キリストは、「すべての造られたものより先に生まれた方です」これはどういう意味でしょうか。

ものみの塔（エホバの証人）やモルモン教（末日聖徒イエス・キリスト教会）のグループの人たちは、

この聖句を根拠に、「キリストは被造物であり、神が造られた最初のお方」、さらに「天使長・ミカエル」だとまで教えています。そうでしょうか。

「先に生まれた（πρωτότοκος（プロトトコス）／英訳：firstborn／邦訳では長子とも訳されています）」という言葉の表現には、聖書では少なくとも3つの意味があります。

第1は、ルカ2章7節で、「（マリアが）男子の初子を産んだ」という文字通りの意味で用いられています。これは、主イエスが「マリアが産んだ最初の子ども」であったという意味です。

第2は、出エジプト記4章22節で、比喩的な意味で使われています。「そのとき、あなたはファラオに言わなければならない。【主】はこう言われる。『イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。』」この節には、神が実際にイスラエルを生んだという概念はありません。しかし主はこの言葉を用いることによって、（神の計画と目的のうちに置かれた）イスラエルの国の特殊な立場を言い表しておられます。

第3は、詩篇89篇27節で、「わたしもまた彼（ダビデ）をわたしの長子 地の王たちのうちの最も高い者とする。」とあります。

「長子」という言葉が、卓越した立場、至高の立場、比類のない立場を示すために用いられています。そこで神は、ダビデをご自分の長子とし、地の王たちのだれよりも高くする、と言っておられます。

ダビデは実際はエッサイの末子でありました。しかし、神は、比類なき、主権のある、至高の立場を彼に与えることにされました。

これがまさにコロサイ1章15節の「すべての造られたものより先に生まれた方」の意味ではないでしょうか。主イエス・キリストは神の比類なき御子であられます。

ある意味では、信者はみな神の子ども（son）ですが、主イエスは神の御子であり、他の誰にも当てはまらない意味において、神の子（Son）であられます。主は、造られたすべてのものより先に存在しておられました。

そして、そのすべてのものにまさる最高の地位を占めておられます。その地位は、支配権を伴う、抜きん出た地位です。「すべての造られたものより先に生まれた」という表現は「誕生」とは何の関係もありません。ギリシャ語辞典ではさらに次のように解説されています。

> πρωτότοκος（プロトトコス）
>
> キリストについてこの語が使われるのはキリストが「…生まれた」（-τοκος）ものであることを言うのではなく、その権威、尊厳がまさにπρωτότοκος（プロトトコス）の権威、尊厳であることを表現する。
>
> （織田昭「新約聖書ギリシャ語小辞典」）

偽教師たちは、この15節を使って、主イエスは被造物であったと教えます。

こうした誤りは、異端者が使うのと同じ聖句の15節で、上記のように論破することができますが、この16節でも同様にできます。

16節は、主イエスが被造物ではなく、創造主ご自身であることを断言しています。万物、全宇宙、この世界のすべてのものは「御子にあって造られた」ばかりでなく、「御子によって造られ、御子のために造られた」「万物は、御子によって造られた」ことがわかります。異端の教えに騙されないようにしましょう。（福島勲）

貴重なご感想をありがとうございました。

次回はマナ２月号の感想を３月10日までに福島兄弟へお寄せ下さい。（畑中）